

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970800809		
法人名	医療法人正寿会		
事業所名	グループホーム だんらん		
所在地	中央市乙黒247-1		
自己評価作成日	平成23年1月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成23年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が家庭にいる時と同じような、ゆったりとした気持ちで日常生活が送れるように、職員は日々努力している。事業所は、田園地帯が広がる静かな環境の中に建設されており、四季それぞれの風景が目を楽しませてくれる。反面、周りに人家が少ない上に、介護老人保健施設に併設されているため、近所との関わりは、どうしても薄くなってしまいがちである。運営推進会議の機会などには、自治会長や民生委員の方に参加していただき、地域の皆さんにできるだけ事業所の存在を知ってもらうように、心がけている。その結果、最近では、地域のお祭りや敬老会などの時には、ご招待いただき、地域の皆さんと一緒に楽しませていただいている。この絆を大切に、将来的には、地域住民の方に気軽に立ち寄っていただけるような事業所になれるようにしていきたいと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

リビングの椅子に座っている利用者の近くにキッチンがあるので調理する音や匂いが感じられ、食欲をそそる楽しみがある。食事は手作りで利用者と職員が同じテーブルを囲んで、なかなか雰囲気の中、食事を楽しんでいるように感じられた。リビングにはちょっとした書棚があり入浴した後、利用者が読書を楽しんでいる風景があった。利用者一人ひとりの居室にはトイレや洗面台が設置されており、プライバシーを大切にしながら、居心地よく、安心して過ごせる環境作りがされていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームだんらん

[セル内の改行は、(Altキー) + (E

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体としての理念「やすらぎ」と、事業所独自の基本方針を掲示してある。利用者の人格の尊重・健康管理・地域との交流などを方針とし、それに基づいた実践を行っている。	事務所に事業所の基本方針(人格の尊重・健康管理・地域との交流)を掲示している。あまり慣れすぎないように、職業として接するように職員間で共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の自治会長を中心として、地域のお祭りや、自治会の敬老会などの行事にも参加させていただいている。また、事業所の行事には、地域の方がボランティアで参加してくれたりして交流している。	地域のお祭りや自治会の敬老会などに参加している。地域のボランティアの方が大正琴や手品などを披露してくれる。玉穂小・中学校の生徒が体験学習で訪問し、ゲームや歌などを披露してくれ交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加させていただく中で、自然に認知症について理解していただけるように努めている。また、グループホームが認知症の人を対象としているということを地域の人に知ってもらうことで、認知症について困っていることを相談してもらえるように努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの実際や評価への取り組み状況について報告し、市職員・自治会長・民生委員や家族と話し合い、出された意見をサービスの向上に活かしている。	市職員・自治会長・民生委員・利用者・家族が参加して2か月に1回開催し、事業報告等を行っている。意見等はあまり出ないので報告をさせて頂き、その後、おやつやお茶を楽しみながら話をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者や地域包括支援センターと連絡を密にし、事業所の実情を伝えながら、協力体制を整えている。	権利擁護の相談や、部屋の空き情報等の事業所の実情を伝えながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしないケア」については、法人全体として取り組んでおり、職員も身体拘束の弊害について理解している。玄関の施錠は、立地条件的になくす訳にはいかず、やむを得ず行っている時もある。基本的に身体拘束を検討する必要もないが、職員のスピーチロック等については常に意識して気をつけている。	職員も身体拘束の弊害については理解しているが、玄関の施錠については安全上やむを得ない時もある。スピーチロックについては「ちょっと待って」「今は駄目」等出してしまう時もあるが、職員同士で気がついた時にその都度注意しあっている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について職員カンファレンス時に話し合い、どんな行為が虐待にあたるか知ることで、事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して、その必要性を学ぶ機会を持ち、制度としてどのような支援が行えるかを理解し、活用できるようにしていく。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、入居前に管理者が家族に対して個別に行い、事業所の利用料金や利用上の注意点などを納得していただいた上で契約していただいている。また、解約や改定の場合は、その都度納得のいくように説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望は、言葉で伝えられない方もいらっしゃるのでは、日常生活の中から察して、運営に活かせるようにしている。また、家族の要望に関しては、面会時に親しく会話をしたり、運営推進会議等の機会に出せるような雰囲気作りにも努めている。	「行事の写真を出して欲しい」「不在者投票はできるのか」「終末ケアの質問」等の意見がある。玄関に意見箱を用意したり、面会の時に何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回は職員のカンファレンスを行い、職員の意見や提案を聞く機会を持っている。また、そこで出された意見や提案は、できるだけ事業所の運営に反映させるようにしている。	「外食や花見などの出掛ける機会を増やしたらどうか」等の意見がある。毎月1回のカンファレンスや年1回の人事評価の時などに現場の職員の意見・要望を十分に聞く機会をもつけ、可能であれば対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や個々の職員の勤務状況や仕事ぶりを評価し、それを給与等に反映することで、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は、法人全体の研修会や、山梨県グループホーム協会の研修等を受ける機会を確保している。さらに、一人ひとりのケアの実際と力量を把握するとともに、働きながらトレーニングを行い、スキルアップに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会がなかなか作れず、交流を通じてのサービスの質の向上は図れていない。今後の課題としたい。			
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階では、本人・家族との面接や、自宅への訪問を通して、不安なことや困っていること、要望等に耳を傾けながら、スムーズに事業所への移行ができるような関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた段階で、家族が困っていること・不安なこと・要望等に耳を傾けながら、安心できる関係を作れるように努力している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所入居を希望してこられるが、「その時」事業所入居が適切かどうかを見極め、在宅生活の継続の可能性も考えながら、支援するように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共にする中で、季節の行事や毎日の家事を一緒に行いながら、人生の先輩としていろいろなことを学ばせていただいている。職員と利用者が、暮らしを共にしているという意識を持つことにより、良い関係が築けるように努力している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆は、事業所入居によって切れてしまうものではなく、大切にしていかなければならないと考えている。家族から自宅にいた時の様子を聞きながら、共に一人の方を支えているという認識を持つことが重要であると思われる。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を聞きながら、それまで暮らしていた地域の行事に参加してもらったり、近所の方の面会をお願いしたり、関係が途切れないように支援している。また、できるだけ馴染みの場所で過ごせるように外出の支援等を行っている。	自宅がある地域の敬老会に参加している利用者や、昔から利用している美容院に家族と共に行き続けている利用者もいる。近所の方に面会に来て頂いたり、継続的な交流ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、良好なコミュニケーションを取れるように、職員が間に入って関わり、孤立しないように気をつけている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了は、病院への入院や他の福祉施設への入所が主であるため、入院・入所時の情報提供等は必要に応じて行っている。その後のフォローは、特に行っていない。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活に関わっている介護職員が、一人ひとりの思いや希望・意向を生活の中から汲み取るようにしている。その中から、介護支援専門員は本人の希望や意向を見出すようにしている。長く利用していただいている利用者が多く、暮らしの中から意向が把握できるように努めている。	日々のかかわりの中で声を掛け、思いや意向を汲み取るように努めている。利用者一人ひとりの言葉や表情から出来るだけ思いを察したり、それとなく確認したりして、把握が困難な時には家族からも情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの相談を通して、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を聞き取るとともに、これまでのサービスの把握については、家族のほか、居宅で関わっていた介護支援専門員から情報をいただきながら、経過の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事業所入居後は、一人ひとりに担当職員を決め、馴染みの関係を作るとともに、日常生活に濃密に関わることで、心身状態や有する力等の現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度はケアカンファレンスを開き、担当者と本人の様子について話し合うことと、面会時に家族の意向等を確認することで、現状に即した介護計画を作成するようにしている。また、担当者から出された意見やアイデアは尊重し、本人がより良く暮らすために活用している。	利用者の視点にたって地域でその人らしく暮らし続けられるように月に1度のカンファレンスを行い、家族の意向等を確認して、意見要望等を反映した介護計画を作成し、家族に説明し同意を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりに個別のカルテを用意し、日々の様子やケアの実践、気づきなどを記録している。また、情報を共有するために、情報を記載したノートを用意し、職員は出勤時必ずそれを見て、新たな情報の取得とそれまでの情報のチェックを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、柔軟な支援を展開している。たとえば、受診や買物等は、原則的には家族対応であるが、都合に合わせてできない時は、事業所に対応するなどして、柔軟に対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人保健施設に併設されているため、どうしても孤立しがちであるが、できるだけ地域の方とも交流して、地域の中に溶け込めるように支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族の対応をお願いしている。しかし、家族の対応が困難な場合は、契約時に説明し、事業所の近くの医院へかかりつけ医の変更をお願いした上で、事業所に対応している。	家族対応のかかりつけ医を利用している利用者が4名いる。他の5名の利用者は事業所の近くの医院へ変更をお願いして事業所対応をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを併設の老人保健施設の看護師に伝える中で、個々の利用者の体調の変化や異変を早期に見出し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、病院関係者に利用者の日常の様子を情報提供しながら、利用者が安心して治療を受けられるように協力している。また、退院の際には、事業所での生活にスムーズに移行できるように病院関係者と連携をとっている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、その時に直面しないとなかなか話し合う機会がもてないが、できるだけ早い段階で本人・家族の意向を確認し、希望に沿った介護ができるように努めていきたい。今後、事業所として何ができるかを検討することが課題であると思っている。	入居時に利用者・家族に終末期のあり方について事業所の方針(看取りはしない)を説明している。本人や家族の意向を踏まえ、その状況に応じて事業所が対応できる最大のケアに取り組む場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生はいつ起こるかわからないため、すべての職員に対して、応急手当や初期対応の訓練を行っているが、実践力として身につけているかどうかは疑問がある。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害を予測し、避難訓練は随時行っている。法人全体で定期的に行っている避難訓練のほか、事業所独自で日常的に実施している。	法人全体で年2回消防署の立会いのもと、初期消火訓練や避難訓練等を行っている。事業所独自では地震を想定しテーブルの下に隠れる等の練習をしている。	事業所独自での昼夜を想定した防災・避難訓練の実施や、地域の消防団との連携に期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活を共にしていると、つい慣れてしまい、言葉遣いが粗雑になったり、心無い言葉かけになったりしてしまいがちであることを、職員全員が認識し、お互い気をつけながら介護にあたっている。	入浴は一人ずつ、排泄は利用者の居室に設置しているトイレを使用し、利用者の自尊心を傷つけるような声かけや、誘導にならないように配慮している。基本的に苗字で呼ぶが同性の利用者に於いては名前で呼ぶ場合もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に接する中で、本人が表す思いや希望を職員が汲み取ったり、日常の様々な場面で、本人の意思を確認しながら介護するようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に、希望を聞きながら支援していきたいと思っているが、入居事業所ということもあり、ややもすると職員側の決まりや都合を優先してしまうこともある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	どの服を着たいかとか、髪形はこれでいいかなど、常に本人に確認しながら、希望に沿えるような支援を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように、調理の段階から参加してもらおうと、野菜の皮むきなどの下ごしらえを職員と一緒にしている。また、食後の後片付けも、自立支援の観点から、できる方にはできるだけ自分で片付けてもらっている。	利用者一人ひとりの力を活かしながら、調理・配膳・下膳等をして頂いている。買い物は職員と一緒に近くのスーパーに出かけている。月に1回外食に出掛ける場合もある。職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事をしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取状況を記録することで、健康状態のチェックを行っている。水分補給にも気をつけており、好きな飲み物を提供するなどして、水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、一人ひとりの力に応じて、介助の仕方を工夫している。まだ、自分の歯がある方もいるので、継続できるように支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンや習慣を把握して、排泄の失敗がないように、時間でのトイレ誘導や排泄時の見守りに努め、できるだけ自立できるような支援を行っている。	自立の利用者が4名いる。他の利用者についても日中は出来るだけリハビリパンツで居られるように時間誘導して、自立出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ほとんどの利用者が便秘で悩んでおり、適切な排便がないために、不潔行為へとつながるケースもある。繊維質の多い食物の摂取や乳製品の摂取量を多くするなど工夫している。また、生活の中で運動する機会を多く持って、予防できるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴については、毎日入れるような体制はとっているが、時間帯については、職員の勤務体制もあって、午後2時～4時と決めている。	毎日入浴は可能だが1日おきに入浴して頂いている。入浴を拒む利用者には、言葉がけを工夫して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の状況や生活習慣に従って、休息をとってもらったり、夜間安心して眠れるように、寝具を整えたり、寝る前の習慣を継続したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、薬の目的や副作用についての説明書を、個々のカルテに綴じており、職員がいつでも確認できるようにしている。服薬については、リーダーが個々に分配したものを、職員が指示通り飲んでいただいている。		



自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、一人ひとりが笑顔で過ごせるように、それぞれの力を活かした役割や楽しみごとを見つけるように支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得ながら、できるだけ外出する機会を持ってもらえるようにすると共に、本人の希望に沿って外出できるような支援を行っている。月に1回は、事業所全員でドライブに出かけたり、外出をする機会を持つように心がけている。	天気の良い日には出来るだけ玄関前の所で、ボール遊びやゲーム・体操などをして戸外で気持ち良く過ごせるように支援している。花見やいちご狩り、さくらんぼ狩りに出かける場合もある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして、個人的に使えるお金は預かっているが、職員が管理しており、本人が使えるようにはなっていない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族への電話はいつでもできるように支援している。手紙は出す機会はないが、年賀状などは家族に宛てて、毎年出すようにしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、できるだけ居心地が良いように配慮しており、季節感を取り入れるような飾り付けをするように工夫している。また、行事の際の写真や、日常生活場面での写真を壁に貼るなどして、生活感を持たせるように工夫している。	リビングには7畳半の和室があり、雛人形が飾られている。壁には七福人の切り絵やクリスマス会・お正月の餅つき・さくらんぼ狩りなどの行事の写真が飾られ生活感や季節感が感じられる。廊下の所々にソファがあり、いつでもくつろぐ事ができるように工夫されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの中にはソファが置いてあり、一人になりたい時は、他の利用者から離れて座れるような配慮をしている。また、気の合った利用者同士で話ができるような居場所の工夫もしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを使って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、できるだけ使い慣れたものを持ってきていただけるようお願いしている。家族の写真や人形など持ってきてもらい、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室の入り口には手作りの名前入りのカーテンが付けられている。居室には備え付けのトイレや洗面台、木のタンスが設置されている。テレビや加湿器、位牌や思い出の写真などの品々が持ち込まれ、利用者の居心地の良さを配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、安全な移動が確保されている。職員総てが利用者一人ひとりの「できること」「わかること」を把握し、力にあわせて安全で自立した生活が送れるように支援している。			